

じゃりみち

……仮設支援情報……



第3号 発行日 1995. 9.28

仮設支援連絡会

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

TEL: 078-362-5951 / FAX: 078-362-5957

E-mail: ngoteam@mb.osaka.inetweb.or.jp

○全体会のお知らせ○

次回全体会は、日時：10月4日（水）17時～18時45分

*（通常より1時間早くなっています）

場所：協立会館4F（毎日新聞ビルの隣ビル）です。

連絡会初・懇親会のお知らせ

せっかく沢山の人が集まる全体会。今回、会議終了後懇親会を企画しました。

この機会に連絡会の交流を深めましょ。

日時：10月4日（水）19～21時

会費：2000円～2500円（予定）

★★9/20全体会の報告★★

約25団体、35名参加

1)「学習会」について報告

2)事務局からのお知らせ

- ・「じゃりみち」について、全体会に参加していない団体でも送付希望の処があれば、報告を。
- ・要望があったので、次回全体会の後懇親会を企画。一人2000円位。（詳細はお知らせコーナーで）

3)イベントについて

- ・前回で確認された連絡会主催のイベントについて、次の案が出され、それぞれに実行委員会を置く事で同意が得られた。

各委員は立候補により、決定。今後も参加を呼びかける。

仮設支援キャラバン：仮設住宅を何力所かをまわり、住民の生の声を吸い上げることと、楽しんで交流を深める事を目的とする。（鈴木：事務局、AHO、鹿島：週末ボランティア、殿本：東灘助け合いネットワーク、

小池：阪神ふれあいしょうかい）

全国キャラバン：全国に被災の状況を伝えると同時に後方支援を強化する事が目的。（村井：事務局、ちびくろ、

市岡：AHI、殿本：東灘助け合いネットワーク、溝口：被災地障害者センター、東條：週末ボランティア）

4)情報交換

- ・台風対策について、ロープが張られているかどうか。張ったロープについても足元が危険でないように気をつける。

チェックの見直しを。

- ・ふれあい用のテントにラーメンの食べ残しや鞆などが散乱していた。危惧していた事だが・・・。

テントの管理の徹底を。

5)孤独死について（先号「じゃりみち」号外参照）

～西神第7仮設のケア・経過報告。

- ・情報は持てど行動力の無い行政、行動力はあれど情報がないボランティア、狭い範囲での目配せができる住民。バラバラである限り孤独死発生は防げない。行政の情報+ボランティアの行動力+住民の相互扶助機能を望む。

- ◆ 議事録のダイジェストです。「議事録」希望の方は上記事務局まで。

- ◆ 全国キャラバン、仮設支援キャラバン（ともに仮称）の実行委員会は、それぞれ週一回で集まりがあります。

興味がある方ややる気のある方は、どしどし参加して下さい。問い合わせは上記事務局まで。

情報コーナー

☆貸しま～す

- (1) 電動草刈機（竹ぼうき、鎌、熊手、等をセット）3台、1台 200円

- (2) 二升炊き炊飯器 2台 無料

問い合わせ 石井（ゆいまある神戸）

TEL/FAX:791-4829(夕5時～)

★新多聞仮設住宅でお茶会

どなたでもお気軽にどうぞ！

毎水曜日 10時～12時

問い合わせ先：グループ アバウト

TEL 078-785-0565（進藤）

EVENT 情報♪

★週末ボランティア

9月30日 仮設住宅訪問 14時地下鉄名谷駅集合

10月1日（日）「個人補償」の街頭署名を行います。

11時～12時半 JR芦屋駅山側ラポルテ広場

13時半～15時 JR住吉駅

16時～17時半 JR六甲道駅

ご都合のつく時間帯にご参加ください。道具類は全て準備してあります。

詳しくは TEL 795-6499 東條まで

★ふれあい訪問 参加者募集

10月1日（日）13時西神中央集合

訪問先：西神中央公園仮設

内容：仮設住宅を訪問し、梨やハンカチなどを配ります。

問い合わせ先：仮設支援連絡会事務局 TEL 078-362-5951（鈴木）

< 仮設は今... >

◇東灘区編◇

震災後、家を失った多くの被災者の方は避難所から仮設住宅へ移行している。

しかし震災後8カ月が過ぎた現在も未だに避難所・待機所暮らしをしている被災者もあれば、既に仮設住宅から出ていった人もいます。多様な動きを見せ始めているが、やはりここでも問題になるのは高齢者・障害者の多い仮設住宅で、その中比較的便利な市街地近辺の仮設住宅は65歳以上の高齢者が60%以上で占められ超高齢化社会を現出している。

文字通り仮住まいの為に建てられた仮設住宅の多くは、多くの欠陥不備を抱えており、高齢者・障害者にとって住みにくい欠陥住宅である。高齢者・障害者にとって障害となっている入り口段差解消の為にブロックを置いたり、ユニットバスの段差解消の為に踏み台を配り、手すりの取付や仮設内の道路の水たまりに砂利を敷く等住居と周辺の環境改善作業を進めながら一方で、独居老人の話し相手、家の片付け炊事等の家事介助、通院・入浴介助等、現在続けている私達の活動も震災直後の火事場のボランティアと言うべきものから被災高齢者、障害者の生活ケアのボランティアに変化しつつある。

その間、茶話やかテントと名付けてテントやビーチパラソルを持ち込み時にはバザーや唄踊り等のイベントを併設しながら各仮設住宅を移動し、お茶と茶菓子で井戸端会議の花を咲かせながら、隣近所と交流のない仮設のみなさんの横のふれあいのお手伝いをさせて頂いた。仮設100戸以上を単位とし県内116ヶ所に建設予定のふれあいセンターも8月から東灘区で4カ所相次いでオープンし自立組織のない仮設での当面の運営に私達も加わっているが、現在自治会等の自立組織づくりに平行して、川柳・手芸・琴・三味線・碁・将棋等の趣味を通じ心をふれあうサークル活動も始まった。

しかし一方で外出もせず、近所との接触もなく閉じ込められたままの独居老人も多い。震災で大きな被害を受け、避難所を出てからは休職も無く自活の道を歩まねばならない高齢者には、日常生活の維持さえ困難な人がある。このような方々の受け皿はあるのだろうか。職もなく収入も少ない人々の多い仮設の現状では、行く先の手だてもままならない被災者の支援をこれから本腰を入れて取り組まねばならない。

(東灘・地域助け合いネットワーク 殿本 弘)

おまけ

前回第2号のEVENT情報でお知らせした、「グループ・アバウト」のお茶会は、「新多聞仮設住宅」の間違いでした。

ほんとに ごめんなさい！

資料庫

- ・神戸市一般仮設住宅 全所在地地図
- ・神戸市一般仮設住宅(第2次～第5次)案内図を入手しました。ご希望の方は事務局まで。
- その他、有用な資料をお持ちの方、連絡下さい。

◆チョットぱた・みみより話◆

最近「自立支援」という言葉をよく耳にします。

そうゆう時期に差し掛かってきたのかな、とは思いますが、まだまだ漠然としたイメージしか浮かんできません。JOCSの会長を務め、アジアに目を向け続けている隅谷さんが、この自立支援のヒントになるようなお話をしていました。

バングラデシュという日本とは状況は全く異なる国でのことですが、援助のあり方を考えさせられるものではないでしょうか。

《隅谷三喜男・談より抜粋》

バングラデシュで学校を見にいった。そしたらねえ、哀れなバラックなんです。「お金を出して学校創っても、こんなバラックじゃ気の毒だ。もうちょっと立派な学校を創ってあげるけど。」と言ったら、彼女は「No Thank You」というんです。「立派な学校を創ったら、これは日本のお金をくれて創った学校だ。台風かなにかあって壊れたりしたら、また日本に、何とかしてくれないかと頼むことになる。そうするといつまでたっても援助に頼る。これではバングラデシュは立ち直れません。学校は自分たちの学校だ。だから風が吹いて倒れたら自分たちの手で直す。そのためには自分たちで頑張れば直せるようなもので結構だ」と言うんです。だからこれ以上、鉄筋コンクリートが何かで創ったら自分たちの手には負えない物。こうゆうふうになったら、自分たちの協力で教育もし、村おこしも、バングラデシュの社会をつくっていくというようなエネルギーやアイディアがみんな駄目になる。今までの援助はみんなそうだったというんです。だからそういう援助はね、プラスもあったとは思いますが、本当のバングラデシュの為にはならない。

(秦洋一・インタビュー)

